

「信濃川大河津資料館」



皆さんこんにちは！ 今日、燕市分水地区にある信濃川大河津資料館を紹介します。
皆さんは「大河津分水」の存在はご存じですか？

私は、名前は知っていますが、その役割、歴史などは詳しく分かっていませんでした。
先日、信濃川大河津資料館へ行き、分水路の機能、建設までの歴史を知ることが出来ました。
今回はその一部をご紹介します。

～大河津（おおこうづ）とは？～

狭められた信濃川

..... 大河津分水通水前の信濃川の川幅



←かつての越後平野は水害常襲地帯であっただけでなく、土地が低く水はけの悪い場所でした。そのため、浸水しにくく水はけのよい越後平野の山際に鉄道や道路がつくられていきました。その後、大河津分水が通水すると、水害や水はけの悪い土地が解消され、今では平野の中央に新幹線や高速道路がつくられ、新潟と首都圏を結ぶ大動脈となっています。

官公庁街の誕生

..... 大河津分水通水前の信濃川の川幅



←大河津分水の通水によって越後平野に流れる信濃川の水量を減らし、川幅を狭くすることができました。その結果、信濃川に架かる萬代橋は、橋の長さを半分以下にすることができたほか、かつて信濃川だった場所には新潟県庁や万代シティが作られるなどし、街の発展につながりました。（説明より）

～ “東洋のパナマ運河” と呼ばれる程の歴史的な大工事～

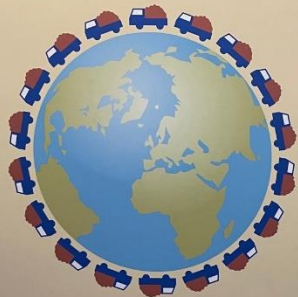
この大河津分水、構想は江戸時代中期に始まり、明治2年（1869年）に着工されたものです。当初はほぼ人力で工事が行われ、延べ1000万人近くの人々が従事したと言うのですから驚きです。様々な事情により幾度の中止を経て、初の通水は大正11年（1922年）であったそうです。

標高100mの山間部を約1.8kmに渡って切り開くこととなったこの工事において運ばれた土砂は約2880万 m^3 、10tトラックに満載して並べると地球1周できる量です！「東洋一の大工事」と言われるのも頷けます。

この工事による恩恵は言うまでもなく、現在の新潟県の発展に大きく影響しています。今の生活は本当に大勢の人々によって成し遂げられたものであったことを改めて知ることができました。



■運び出された土砂



総土量 約2,880万 m^3

土を積んだダンフカーを並べると、
地球を一周する長さになります。
(10tダンフカーを容量9.5 m^3 長さ7.6mとする)

■働いた人々



第2期工事で働いたのべ人数 1000万人



当時の新潟県人口 約180万人



当時の全国総人口 約4400万人

～水害シミュレーションコーナー～



ここでは「もし大河津分水がなかったら」をテーマにしたシミュレーションを見ることができました。かつて実際に起きた洪水をモデルにしており、非常にリアルです。治水の重要性を心から感じました。



いかがでしたでしょうか？今回はほんの一部のご紹介となりましたが、分水の役割や治水の重要性、さらに工事における壮大な歴史を学ぶことができる素晴らしい資料館です。皆さんも機会あれば是非、信濃川大河津資料館へお立ち寄りください！